

# 中小の働き方が変わる

キミカ

キミカ(東京都中央区)の笠原文善社長(東京健康福祉大学)は、コロナ禍による空き時間を活用し、2021年3月に博士号(薬学)を取得した。リアルな面会や移動が伴う業務が制限される中、トップ自ら率先して社員に範を示した。11年からアルギン酸



カルシウムの生理作用に関する共同研究してきた高崎健康福祉大学が授与した。以前から「これだけデータがあれば博士号が取れると」(笠原文善)「時間的余裕はない」と受け流してきた。だが、コロナ禍によ

コロナ禍で生まれた時間で博士号を取得。社員に時間の使い方でも範を示した

在宅の空き時間有効活用

## トップ自ら実践、博士号取得

在宅勤務で「出張には行けない、お客さまも来ない、昼間の会合も夜の宴席もない」。そこで始めたのが博士論文の執筆だ。途中で「何でこんなことを始めたのか」と後悔することもあったが、薬学博士の学位を取得した。

コロナ禍が与えた「時間」という贈り物を有効活用した。同社は空き時間を自己啓発に充てることを社員に促しており、逆境を逆手にとった取り組みを期待している。